

01	名古屋	猪子石中学校	ミウラ ケンタロウ 名前 三 浦 健 太 郎
分科会番号	3	分科会名	社会科教育(中学校)

研究題目

人間らしく学び続ける社会科学習 ～ゆだねることで自走がはじまる～

研究要項

1 研究のねらい

現代社会では、ChatGPT や Copilot に代表されるような生成 A I サービスを誰でも簡単に使えるようになった。生成 A I サービスに問いやテーマを入力すると、膨大なデータの中から適切な情報のみを取り出し、分かりやすくまとめてくれる点は、人間の学びに類似するものがある。私が行っている社会科の授業においても、仲間と自由に話し合うことができる環境があるにもかかわらず、インターネットの A I にのみ正解を求める生徒が一定数いる。この学びは人間本来の学びと言えるのだろうか、そんな疑問が生まれる。何に疑問をもち、どのような問いに関心を寄せて探究するのかを、決める主体は人間である。また、先行きが不透明で、将来の予測が困難な現代社会だからこそ、他者の考えに耳を傾け、よりよく新たな学びを生む人材がこれからの社会では求められるようになると思う。

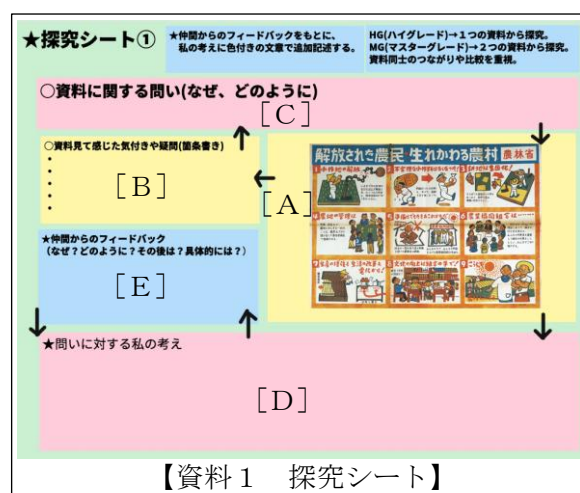
本実践では、自分で立てた問いを探究し、ゆるやかな協働性の中で、学びを自走し続けられる「人間らしく学び続ける」生徒を育てたい。そのために、生徒を信じて学びを「ゆだねる」ことから、すべてをはじめることにした。そこで、人間らしい学びの自走を支える「探究シート」と自走を続ける「コラボシート」を用いる。「探究シート」を活用することで、気付きや疑問から自ら問いを立て、他者からのフィードバックを基に、自分の考えを深め、学びを広げる。「コラボシート」を活用することで、自分と他者の探究を組み合わせ、考えを磨き、問いを再構築し、学びを更新させることができるようになると思った。問いの設定、探究、フィードバックなどの探究的な活動を生徒に「ゆだねる」ことで、学びを自走し続けられ、新たな学びを生むことができるようにしたい。

2 研究の手立て

(1) 自走を支える「探究シート」の活用【資料1】

自分の問いを見つけて探究するためには、資料から得た気付きや疑問から出発し、探究的な活動を進める中で、他者からのフィードバックを基に、自分の考えを深め、学びを広げることが必要だと考える。

はじめに、決められた資料の中から自分の興味・関心に基づく資料の一つ、もしくは二つ選択し [A]、資料を見て感じた気付きや疑問を箇条書



きで記入する〔B〕。その気付きを基に、資料に関する問いを設定する〔C〕。生徒が自由に選べる選択肢を複数設定して、生徒に「ゆだねる」範囲を広げることで、生徒の興味や関心のエネルギーを持続できるようにする。選択した資料について、教科書や資料集、タブレットを用いて調べ、問いに対する自分の考えをまとめる〔D〕。次に他者からのフィードバックを「なぜ？どのように？その後は？具体的には？」など質問形式で記入してもらう〔E〕。フィードバックに対する考えを色分けして可視化し、問いを考え直し、自分の考えを深めることで、学びの成果を実感できるようにする〔C〕。

このように「探究シート」を活用することで、生徒の興味・関心を原動力に問いを設定し、探究の過程で他者の視点を受け入れることで、自分の考えを広げていく。さらに「コラボシート」や「単元レポート」の土台となるものと設定することで、学びの自走を支えると考え。

(2) 自走を続ける「コラボシート」の活用【資料2】

自分の探究を磨き、学びを自走させるためには、自分と他者の探究を組み合わせることで、自分の考えのよさや改善すべき点に気付き、自分の考えを再構築することが必要だと考える。

まず、5～6人の小グループになり仲間の「探究シート」の発表を聞き、自分の興味・関心に基づいて仲間の「探究シート」を一つ選択する〔A〕。選択した他者の「探究シート」との共通点やつながりを見いだせる自分の「探究シート」を選ぶ〔B〕。自分と他

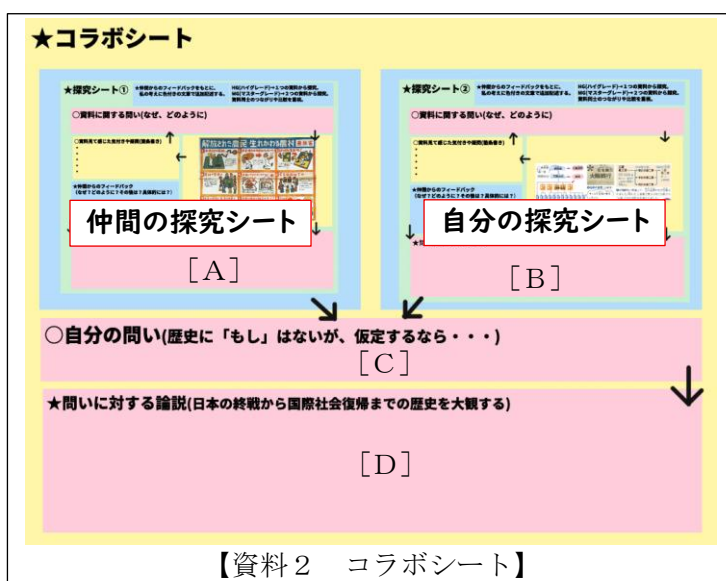
者の「探究シート」を組み合わせ、自分の問いを再構築する〔C〕。歴史に「もし」はないが、あえて仮定することも選択肢の一つとした。最後に再構築した問いに対する自分の考えをまとめる〔D〕。探究テーマである「戦後11年で日本はどのように変わってほしいのか？」という歴史の変化も意識できるようにする。

このように、「コラボシート」を活用して自分と他者の探究を結び付けることで、一人では得られなかった新たな気付きや視点を発見することができる。また、その気付きを学び続けるための原動力として、考えを深めたり磨いたりすることで、新たな問いを再構築することが可能となる。この過程を通して、次の探究や新たな学びが生み出され、学びが連続的に発展していくと考える。

3 実践計画

(1) 教材について

戦後80年以上が経過した現代において、戦争を経験した日本人が「平和で民主的な社会を築きたい」という願いのもとで、どのような国づくりを進めたのかを探究することは、今ある当たり前を見直す契機になる。特に平和主義、民主主義、基本的人権、教育を受ける権利など現代社会の基盤を軸に考えることは、その背景にある人々の願いや努力に目を向けることで社会的資質・能力を育てることにつながる。また、生徒が資料を基に自ら問いを生み出し、過去と現在を関連付けながら根拠をもって考え、「戦後の日本が現代に残したもの」を追究することで、歴史を自分事として捉え、未来の社会の在り方について主体的に考える学びへとつながることが期待される。



(2) 単元の指導計画（6時間完了）

第3学年 歴史的分野「日本の民主化と冷戦」

段階	学習活動	指導上の留意点
捉える	第1時 ○戦後11年で起きた日本の変化を捉える。 ○学習課題をつかむ。 探究テーマ：戦後11年で日本はどのように変わることを望んだのか？	・終戦から日本の国際社会復帰までを映画の主人公の視点から捉えることで、単元の見通しを立てられるようにする。
考える	第2～4時 ○戦後11年で起きた日本の変化を踏まえ、資料を選択して、問いを設定する。 ○問いに対して自分の考えをまとめる。（「探究シート」①・②を完成させる。）	・「探究シート」を活用し、自分の興味・関心を基に二つの資料の中から一つを選ぶことで、主体的に探究的な活動を進められるようにする。 ・自分の考えに対して、他者からフィードバックを受けることで、自分の考えを深められるようにする。
深める	第5時 ○グループ活動で自分の「探究シート」を発表する。 ○他者の発表に基づいて、「コラボシート」に自分の「探究シート」と他者の「探究シート」を貼り、問いを再構築して自分の考えを論説としてまとめる。 追究課題：戦後の日本は現代の私たちに何を残したのか？	・「探究シート」の発表前に、「コラボシート」の説明をすることで、見通しを立てながら、発表を聞き、他者の「探究シート」を選択できるようにする。 ・探究テーマ「戦後11年で日本はどのように変わることを望んだのか？」を改めて問い掛けることで、戦後の日本の変化を捉え、その背景や影響を考察できるようにする。
つなげる	第6時 ○追究課題について、自分の考えを単元レポートにまとめる。 ○単元の振り返りをまとめる。	・追究課題を考えることで、戦後11年の変化を過去から現代へとつなげ、捉えられるようにする。 ・単元を通して、学んだことや学び方を振り返ることで、新たな学びを生む。

4 実践の様子

(1) 捉える段階（第1時）

第1時では、シベリア抑留を題材にした「ラーゲリより愛を込めて」という映画の予告を視聴して、シベリア抑留から帰還するまでの11年間で日本の社会が大きく変化したことを捉えた。シベリア抑留という題材を通して、終戦時における日本の混乱ぶりや復興していく過程の中で、11年ぶりに帰国した映画の主人公の視点から戦後の変化に気付かせると、「日本はこのあと、どうなっていくんだろう」と感想を書く生徒もいた。そこで「戦後11年で日本はどのように変わることを望んだのか」を探究テーマとし、11年間で起きた具体的な歴史や終戦から国際社会復帰までの過程をプリントで確認することで、単元の見通しをもてるようにした。

(2) 考える段階（第2～4時）

第2～4時では、単元内自由進度学習として、個別指導を加えながら、授業全体を生徒にゆだねることにした。「探究シート」を用いて自分の問いを見付け、探究する機会を2回繰り返すこと

で、自分の探究をさらに高めることができるようにした。生徒の中には、「探究シート①」で受けたフィードバックを「探究シート②」における他者へのフィードバックに活用する生徒もいた。問いを立てることに難しさを感じている生徒がいたことから、歴史的な見方・考え方には「背景や原因」「つながり」などがあることを学級全体に提示し、共有した。これにより、「戦後、日本政府は何が変わり、国民にどのような影響を与えたのか?」「なぜ財閥は解体された?日本の経済はどのように変わった?」「アメリカが日本に求めた国家像とは何か?」など、変化や影響を探究する問いが多くなった。その後、不足している視点を補うような鋭いフィードバックこそ、実力向上につながると説明すると、あえて普段話さないような仲間にフィードバックを頼む生徒もおり、ゆるやかな協働性の中で学ぶ姿が見られた。「フィードバックって、なぜ?とかの疑問形がいいんだよね?」と対話しながら、相互にフィードバックを作り上げる生徒もいた。【資料3】

満20歳以上の男女に
選挙権が与えられたことは、
国民にどのような影響を与えた?



【資料3 フィードバックを行う生徒の様子】

生徒Aは「天皇の人間宣言」と「日本国憲法」の資料を用いて、「戦争に敗北し、GHQが主導となった日本はどのように変化していったか。」という問いを設定した。生徒Aの考察では、天皇制の歴史を俯瞰したうえで、日本国憲法の制定による国民主権と象徴天皇制の関係性を明らかにしている。「日本は他の民主主義国と違い、天皇が存在するが、どのようにGHQは生かそうとした?」という他者からのフィードバックを受けて、「GHQによって『国民の心のよりどころ』つまり『日本国の象徴』となった」と結論付けており、GHQの影響を受けながらも、日本が望んで変化し続けたと考察していた。【資料4】

★探究シート②

★仲間からのフィードバックをもとに、
私の考えに色付きの文章で追加記述する。

HG(ハイグレード)→1つの資料から探究。
MG(マスターグレード)→2つの資料から探究。
資料同士のつながりや比較を重視。

○資料に関する問い(なぜ、どのように) 戦争に敗北し、GHQが主導となった日本はどのように変化したか?

○資料見て感じた気付きや疑問(箇条書き)

- ・日本国と違い、アメリカ主導なのはなぜ?
- ・天皇は神ではなくなったのは何で?
- ・天皇の権力はそのままでもいいのでは?
- ・憲法の三権は日本にどんな影響?
- ・どちらも戦後の資料

★仲間からのフィードバック

(なぜ?どのように?その後は?具体的には?)
日本はほぼ完璧な民主主義となったことで、世論や政策は戦前と比べてどのように変わった?また、日本は他の民主主義国と違い、天皇が存在するが、どのようにGHQは生かそうとした?

★問いに対する私の考え

第二次世界大戦で久しぶりの負けを期した日本。戦後はアメリカのGHQが中心となって新しい日本をつくっていたが、特に日本に大きな影響を与えたのは「天皇」の存在だと思う。もともと天皇は不安定な存在の時もあり、平安時代には藤原氏に、鎌倉時代では、武士が裏舞台に立っていた。南北朝では、天皇が勢力を戻すと思ったが、結局江戸時代の終わりまで武家政治が続いた。時は進んで明治になり、大日本帝国憲法では、天皇が日本のTOPとなった。しかし、戦後は「人間宣言」出すことによって、天皇の政治的権力はなくなり、天皇は「象徴」となった(天皇象徴制)。だから、政治は内閣が中心となりそうだが、ここで登場するのが、新しい日本の中心となるであろう「日本国憲法」。三原則として「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」掲げており、この中の「国民主権」により、最終判断は国民にゆだねることになった。また、アメリカが民主主義を掲げているため、それに対応する政策が行われた。女性の権利を増やしたり、教育を自由化したり、圧政的制度の撤廃をした。これは世論が反映されている。他の国にはない天皇制は、GHQによって「国民のよりどころ」、つまり「日本国の象徴」となった。また左の資料のように天皇が人々に近づき、街を訪問して、国民との関係を一層深めていった。これが日本各地のイベントを視察・参加しているように現代にも受け継がれている。

【資料4 生徒Aの探究シート②】

フィードバックを受けて、色分けして追記している。

(3) 深める段階（第5時）

第5時では、「探究シート」を5人の小グループで一人ずつ発表した後、他者の「探究シート」を一つ選択して、「コラボシート」にまとめた。【資料5】自分と同じ資料を用いた他者の「探究シート」を選択し、比較することで共通点やつながりを見付ける生徒が多くいた。さらに自分の「探究シート」とは違う視点の他者の「探究シート」を選び、そこから新たな問いを再構築する生徒もいた。



【資料5 探究シートを発表し合う生徒の様子】

生徒Aは「戦争に敗北し、GHQが主導となった日本はどのように変化していったか」という自分の問いと「サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約はなぜ同じ年に結ばれた？」という他者の問いを組み合わせ、「もし日本がアメリカによる主導じゃなかったら？」という問いを再構築した。そして、問いに対して、「ソ連が有利になって主導していたら…？」という大胆な仮定を設定して、日本の国際社会復帰に対して二つの可能性を考えた。また、「ソ連は早く崩壊、ドイツも分断が解除され、ウクライナなどの周辺国も独立」と、日本の視点に留まらず、アメリカとソ連には世界情勢に変化を与える影響力があったことを考察することができていた。【資料6】

○自分の問い(歴史に「もし」はないが、仮定するなら・・・) もし日本がアメリカによる主導じゃなかったら？

★問いに対する論説(日本の終戦から国際社会復帰までの歴史を大観する)

日本は第二次世界大戦で連合国側に敗北した。敗北した後の日本は、ソ連ではなくアメリカの主導によって改革が進められた。これはアメリカが広島・長崎に原爆を起し、戦後の世界で有利に立とうとして、それが実際になかったから。だけど、もしアメリカが原爆とか落とさず、逆にソ連が有利になって主導していたら…？

僕は結構いろんな可能性があると思う。まずは民主主義国家ではなく社会主義・共産主義になっていたルート。ソ連の主導の改革なのでソ連や中国に似た政治を行っていた可能性があるし、それで日本がよいようにやっていたら、ソ連はもっと長く続いていた。逆に日本人もソ連の人と一緒に反発し始めればソ連は早く崩壊、ドイツも分断が解除され、ウクライナなどの周辺国も独立。完全に世界情勢が変わっていたかも知れない。ほかに考えられるのは、国際復帰が遅れていた、もしくは早まっていた可能性がある。サンフランシスコ平和条約とか安保条約はアメリカ主体でやっていた。でもアメリカはソ連と対立している。だからそれができずに、連合国側との関係の回復が悪くなっていた可能性がある。また日ソ共同宣言が早くなっていた場合もあるから、それ始めたら国際復帰が早くなっていたルートも見えてくる。

【資料6 生徒Aのコラボシートの問いと結論】

(4) つなげる段階（第6時）

第6時では、「戦後の日本は現代の私たちに何を残したのか？」という追究課題について、単元レポートをまとめた。日本国憲法や選挙制度、自衛隊など政治制度に関するものをまとめる生徒が多く見られた。生徒Aは「この日本を次の時代へ残せるように、選挙権をもったら、そのような政治家に票を投じていきたい」とまとめ、戦後と現代のつながりを自分事として見いだしていた。【資料7】

他にも、国民の平和や戦争に対する考え方や国際社会の日本の立場から日本がめざすべき姿など現代へのつながりを論述する生徒Bもいた。【次頁資料8】

単元レポート

追究課題

戦後の日本は現代の私たちに何を残したのか？

戦後の日本は現代日本の基礎を残した。

その基礎とは制度だったり、産業だったり、国際社会の立場のことだ。

まず、制度については、労働組合法や労働基準法などは現代の働き方につながっていて、日本国憲法では国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の三原則や教育基本法は今の日本人の思想につながっている。これらは戦前の日本とは違うものであり、理想のような民主主義国家となった。

次に、産業については日本は技術を取り入れ、国民性などで高い技術を手に入れたが、よくも悪くも性能を良くすれば良く売れるという考えが身に付き、アメリカや多くの地域で日本製品の品質の良さが賞賛されているが、今は価格競争にまけて韓国や中国などにシェア率を奪われている。

国際社会の立場では、国連加盟や万博、オリンピックで回復していき、一定の高い立場を持っている。また、日本は戦後で戦争をしたことがなく、唯一の被爆国で今は平和主義であるため戦争の悲惨さや戦争をしないように世界へ発信し続けている。

戦後の日本は戦前の隠された日本の性質を発揮し、今の日本の基礎を作り、新しいグローバルな日本を残した。この日本を次の時代へ残せるように、日本の悪い面を改革し、日本の良い面を高めていけるように、そのような活動や、選挙権を持ったらそのような政治家に票を投じていきたい。

【資料7 生徒Aの単元レポート】

戦後の日本は、僕たちにさまざまな「遺産」と「問いかけ」を残したと思う。まず、日本国憲法における平和主義や民主主義は、戦争の惨禍から生まれた貴重な価値あるものであるし、僕たちは今、平和の大切さや自由の意味を当たり前のように受け取っているが、それは戦後の人々の苦しみと努力の上に成り立っているものだと思う。また、戦争の記憶や歴史認識についても、被害と加害の両面をどう受け止めるかという課題は、今なお続いていると思う。僕はこうした「戦後の遺産」をただの過去の出来事ではなく、「これからの生き方を考えるためのヒント」として捉えていきたいと思った。過去から学んで今、なにが起こっているのかに着目して、未来に何を残すべきか。それを考えることが、戦後を生きた人たちへの答えになるのではないかと思う。

【資料8 生徒Bの単元レポートの一部抜粋】

単元の振り返りでは、「戦後の日本について政治や経済、国際復帰など多面的に考察することができた」「戦前と戦後を比べて、続いたこと、変わったことなどを読み取ることができたと感じる。現代へのつながりも、次の単元ではさらに意識したい」など本単元で得た学びを自分の言葉で表せる生徒が一定数いた。生徒Aは考察するうえで、自分に置き換えることが深く学ぶための原動力になると自らの学び方を分析できており、学びの自走に近付くことができていた。【資料9】

3 単元を通して身に付いた力（見方・考え方）や単元を通じた学び（単元の内容）で今後に生かせることを具体的に書こう！

今回は戦後に日本が平和主義国家に近づくために行ったことを調べられた。日本政府は色々な政策をしたが、何を思っていたのかや、国民の生活がどう変化したのかなどを考察して、自分に置き換えて考えると、詳しく学べるので良いと思った。今後も自分に置き換えて学びを深めていきたい。また今後の学習で、平和主義国家に近づくことができた日本は平和を維持できたのか、それともどこかで崩れてしまうのかも注目したいと思う。

【資料9 生徒Aの単元の振り返り】

5 実践まとめ（○：成果、●：課題）

【手立て1 自走を支える「探究シート」】

- 「探究シート」を活用することで、自分の問いを見付け、他者からのフィードバックを基に、探究し続けることができた。生徒Aのようにフィードバックから得た新たな視点を踏まえることで、時代の変化から現代へのつながりを捉えることができた生徒がいた。
- 問いに対する考えの中で事実のみを羅列するような記述が見られた。他者からの適切なフィードバックを受け止められなかったり、自分の考えを深めることができなかったりしたからだと考える。フィードバックの具体的なループリクを提示してから「探究シート」に取り組むことで、フィードバックの質が向上し、探究したいという生徒の意欲を高められると考えた。

【手立て2 自走を続ける「コラボシート」】

- 「コラボシート」を活用することで、自分の「探究シート」と関連する他者の「探究シート」を比較し、共通点やつながりに気づき、新たな問いを再構築し、自分の考えを更新することができた。
- 全体の約3割の生徒が特定の状況や課題にのみ焦点を当てた問いに留まっていた。歴史を比較したり、関連付けたりすることで、過去から現在へと続く歴史の大きな変化を捉えられるような問いを構築できるように、具体的な事例から抽象度を上げる工夫を考えたい。

6 今後に向けて

本単元で活用した「探究シート」や「コラボシート」は、資料から問いをつくり、自分と他者の探究を結び付けて新たな問いを再構築する手立てとして有効だった。一方で、生徒が学びを自走し続けるためには、互いの探究へのフィードバックを充実させ、新たな視点や気づきを得る機会を増やし、さらに学び続けたいという意欲や原動力を高めていく必要があると感じた。今後は、生徒に「ゆだねる」範囲を広げながら、主体的な問いの設定と協働的な活動を通して、考えを自ら深化させながら、学びが連続的に発展していく授業づくりを進めたい。そして、学びを自走し、人間らしく学び続けられる社会科学習の実現を目指して実践研究を重ねていきたい。